

〈要約〉

情報通信技術（IT）の進展が交通需要に与える影響

The influence that progress of the information and technology gives in traffic demand

岡 本 久
Hisashi Okamoto

1. 交通と情報通信との関係仮説

情報通信の進展が交通に与える影響については今まで種々の議論がなされ、既往文献によると、以下に示す「代替性」と「補完性」を論ずるものに大きく分類されている。

(1) 「代替性」に関する論点

本仮説は、伝統的かつポピュラーな仮説とされている。情報通信手段を利用することにより、平易・効率的に相手との意思疎通が図れ、外出を伴う対面(=「交通」)が必要なくなるというものである。人々は、いつでも・どこでも・誰とでも情報通信手段によってコミュニケーションが可能となる。こうした空間的距離の克服によって、移動に対するニーズが減少、ひいては交通需要が減少していくであろう。出向く代わりに、電話、FAX、ポケベル、携帯電話、Eメール等で済ませば、人的移動の必要性はなくなる。このように、ITの進展によって、交通行動は逐次代替されていくとしたものである。在宅勤務、サテライトオフィス等による新しい労働形態（テレワーク）、テレビショッピング、インターネットショッピング等によるホームショッピング、ホームバンキング、電子会議、テレビ電話等の出現は、従来までの人的移動に少なからず影響を与えていることも事実である。

この限りでは、人的移動は減少することになる。

(2) 「補完性」に関する論点

上記の「代替性」仮説に真っ向から挑戦するもので、今日の情報化社会におけるコミュニケーションは「交通」と「情報通信」とが相互に補完し合って、はじめてその目的が達成されるとした仮説である。したがって、情報通信手段がいくら進展しても人的移動を消滅（減少）させることはなく、コミュニケーション手段それぞれの持つ機能を使い分けることにより効率的なコミュニケーションが図れ、両者は補完財（「情報通信」が「交通」を補完する場合もあるだろうし、「交通」が「情報通信」を補完する場合もあるだろう）であると論じている。電話等による情報通信コンタクトが「対面」の必要性を誘因し、その結果交通需要が発生するといったシナリオである。例えば、事前にメール・FAX等で情報を共有した上で、詰めは「対面」で行う、対面に繋げるために電話等によってアポ取りを行う、電子メール友達（メル友）のオフ会に出かける、…等々。場を共有し、相手の物腰・仕草等情感を伴った情報も伝わる対面手段の優位性が情報通信手段によって取って代わられることは決してないとするものである。

2. 仮説の検証結果

上記仮説の検証にあたっては、既存OD統計等を用いた実証分析によった。実証分析では、交通と情報通信との関係を大枠で捉える位置づけで、相関分析、弾力性モデル分析を実施した。その結果、長距離帯（コミュニケーション相手との距離）において一部代替効果の存在を間接的に観察できたものの、現実の統計データによる分析結果では逆の現象を示しており、情報通信によるコミュニケーションは総体として、対面を補完・強化する役割を担っているものと判断された。